延喜式内名神大社

生島足島神社便り

Vol.53

北門の桜

ごあいさつ／氏子定期総会／氏子総代・役員 …… 2
ごあいさつ／主な境内改修／氏子総代・役員／新任総代 …… 3
令和2年度事業計画／神社の屋根を見てみよう …… 4
年間行事／これからの祭典 …… 6
年間行事／神棚のお祭り・国旗について …… 7
初詣・福だるま／節分／卜事／お知らせ／編集後記 …… 8

QR コード
携帯電話、スマホにて簡単に
ホームページにアクセスできます。

QR コード
「参拝の作法と参拝順序」
まいぶれ上田・東御にアクセスできます。

第53号　令和2年4月　生島足島神社　上田市下之郷中池西701　TEL0268(38)2755　FAX0268(39)1515
公式ホームページURL　http://ikushimatarushima.jp/

ごあいさつ

宮司　宮川清彦

令和二年が始まって早、四ヶ月が経とうとしています。「庚子（かのえね）」ともいう年ですが、表す意味は、「変化の年、新たな芽吹きと繁栄の始まり」。つまりは新しいことを始めるのによい年であり、天地の助けを得て順調に進む事を暗示しています。

「かのえね」の年は六十年に一度回ってきますが、前回は今上陛下がお生まれになり今回は令和の初正月を迎えた輝かしい年です。コロナウイルスが猛威をふるっていますが一日も早く収束するよう願うばかりです。

さて、「ね」年にちなみ、言葉の遊びを紹介します。子を十二並べてどう読むでしょうか。平安時代、嵯峨天皇が小野篁（おののたかむら）に出した難問です。「子子子子子子子子子子子子」

答えは区切るところに「（の）」を入れて「ねこ（の）ここねこ　しし（の）ここしし」。分かりやすく漢字で示し、句読点を入れますと、「猫の子、子猫獅子の子、子獅子」です。

「子」という漢字は「ね」・「こ（子供などのこ）」・「し（子息などのし）」というように、いくつも読み方がありますね。

さて、「蛙（かえる）の子は蛙」という言葉を思い出しますが、子供は親をなかなか越えられないという意味で使われます。今は家にいても学習ができ、情報も手に入ります。個性を豊かにし、感性を伸ばすことができる時代。巡りきた「かのえね」のこの年に、今まで出来なかったことに挑戦してみてはいかがでしょうか。

生島足島神社にお祀（まつ）りする神様の御神徳は「万物を生み育て国中を満ちたらしめる」ものです。六十年に一度巡りきたよき年、一歩を踏み出しましょう。

氏子定期総会

三月二十一日（土）、斎館会議室において午後三時より開催された「下之郷三頭獅子舞保存会総会」に続き、午後四時より多くの方々が出席される中、「氏子定期総会」が厳粛に開催された。

宮川宮司のあいさつに続き、氏子総代長あいさつで松澤繁樹総代長より神社内環境整備、事業計画について述べられた。続いて、来賓の歴代総代長依田嘉重様より祝辞をいただきました。

その後、村越深典自治会長を議長に選出し、左記の議事について審議されました。

一、平成三十一年度収支決算について
二、令和二年度事業計画について
三、令和二年度収支予算について
四、境内清掃
　出役について

十一月二十九日（日）午前六時半と決議され、質疑応答の後、本年度責任役員が紹介され閉会となりました。

令和二年度 氏子総代・役員

令和二年三月一日御本社に於いて、宮川宮司より継続された総代七名と新総代一名の「新任総代委嘱書」が交付されました。

引続き、令和二年度「第一回氏子総代会」が開催され、任期満了の責任役員三名の選出選挙が厳正に行われ、祭典部長に横山正直氏（十班）、管理部長に木本昭征氏（一班）、広報部長に高梨勝緒氏（十班）が選出されました。神社・氏子の皆さんのご指導の下、円滑に業務が遂行できますよう、新任総代共々ご指導・ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

なお、令和二年三月より左記の「新役員と分担表」の通り担当し、生島足島神社運営に尽力いたしますので氏子の皆さんの温かいご支援とご協力お願い申し上げます。

氏子総代長　松澤　繁樹（六班）
副総代長
総務部長　永井　憲幸（四班）
副総代長
経理部長　伊藤　治明（五班）

新年度ごあいさつ

氏子総代長
松澤繁樹

就任して一年を振り返って見ますと、総会、春季祭、祇園祭、秋季祭、年末年始、節分追難祭など主な行事、祭事を取り上げてみましたが、全てにおいて準備、片づけ、心遣いが必要であり全員が一丸となり取り組む姿勢の重要性を改めて感じました。

そして、氏子、崇敬者の方々に支えられ運営できる事に感謝しながら、先人たちが守ってきた歴史ある貴重な文化財、形態を守るため、多くの補修、改修を行ってきました。しかしまだ出来なかった部分も多く、課題も見えてきました。今期は安全で安心、そして氏子の皆様が気軽に神社に来ていただける雰囲気作りと更なる環境整備「宮池のフェンスを西から南側を新しくする、監視カメラの強化、山宮の整備など」を進めていきます。

総代作業

変わらぬご支援、ご協力をお願いし、皆様のご多幸が訪れる事をお祈り申し上げご挨拶と致します。

主な境内改修

昨年度は、参拝される方々をお迎えするにあたり、「安全で心安らぎ、何度も訪れて頂ける神社になるように」、と改修・改善を行ってきました。前号（第五十二号）でも主な場所を紹介しましたが引続き紹介します。

①正月青竹による手水施設

②お焚き上げ燃えカス飛散防止柵

③社務所壁カビ清掃作業

④神賑祭の観覧テントとシート敷き

新任総代の方

8班
田村　民生
管理部

祭典部長　横山　正直（十班）（継続）
管理部長　木本　昭征（一班）（継続）
広報部長　高梨　勝緒（十班）（継続）
総務部　村山　生夫（一班）（継続）
〃　宮入　政宏（二班）
管理部　村山　光義（二班）
祭典部　伊藤　孝明（三班）
〃　斎藤　正彦（四班）（継続）
広報部　依田　一幸（五班）（継続）
〃　辰野　富夫（六班）
管理部　小林　修三（七班）
〃　田村　民生（八班）（新任）
経理部　上野　正人（八班）
〃　曲尾　哲夫（九班）
管理部　横関　正幸（九班）（継続）
祭典部　村山　紀雄（十班）
管理部　島田　信夫（十班）

令和二年度 事業計画

総務部

総務部長
永井憲幸（四班）

一、神社建物・構築物他、公園の保守点検整備を実施する。

一、県宝歌舞伎舞台の壁・屋根瓦の修繕

市教育委員会と協議し、施工方法の検討等を進め予算を立てる道筋をつける。

二、社務所と斎館との渡り廊下の修繕

現在屋根がかかっていないため床手すりが腐食し、通行や作業等危険なため、早急に修繕する。

三、老朽化した宮池の転落防止柵を神社カラーの柵に交換する。

四、水質浄化方法を研究し、宮池を綺麗な池にするための方策を策定する。

二、総代・神職・職員相互の親睦を図る。

研修旅行・親睦会・慰労会等を計画、実施する。

経理部

経理部長
伊藤治明（六班）

一、会計業務

一、現金支払いの現金出納帳を記帳し、手持ちの現金を管理する。

二、日々の収支を日計簿に記帳して月計表等を作成し毎月役員会にて監査を受ける。

三、関係書類を準備し、年2回の会計監査を受ける。

四、一般会計収支決算書、予算書を作成し定期総会にて提案する。

五、総代（婦人部）手当の支給、職員俸給の振り込みを行う。

六、週初め、週末に金融機関へ行き初穂料・賽銭等入金しその他各種振込みを行う。

二、備品（飲食物を含む）の手配

一、祭典及び会合後に直会の有る場合は、飲物・皿盛り等の手配を行う。

二、総代出役などの際は、飲物・弁当の手配を行う。

三、事務備品、作業備品の手配を行う。

三、長野県神社庁、新庁舎氏子会館建設について（新庁舎設立負担金に備える。）

祭典部

祭典部長
横山正直（十班）

一、祭典参進前の手水の儀、警護、扉、柵、注連縄の開閉他、準備、片付けの手伝い。

二、結婚式の準備、片付け、浦安の舞の練習時の世話役。

三、年末年始の準備、注連縄作り等の作事を早めに行う。

四、名入れだるま、福だるまの目入れ、福升の焼印押し等、事前準備。

五、山榊（そよご）、空木（ウツギ）、ヨシ等の採取、また採取場所の環境が変化しているので対策を考慮する。

六、結界作り用の青竹取り、地主、持ち主に事前にお願いしておく。

七、各部と協力して作業、準備をスムーズに行う様にする事。

神社の屋根を見てみよう ～【千木】と【鰹木】～

権禰宜
友野直樹

神社の建物には、一般住宅には見られない所が数多くあります。お参りの際必ず目にしているかと思います。その意味を知り、次回のお参りの際じっくり鑑賞して見ませんか？比べてみると、新たな楽しみが生まれて来るかもしれません。

今回は特に屋根の飾りについて触れていきたいと思います。

特徴的なものは2点程あります。先ずは棟の端にある× ×の部分です。これを「千木」（ちぎ）と言います。

御神前で奏上する祝詞の中でも、「高天の原に千木高知りて…云々」とあり、神社建築で特徴的なものであり神社のシンボルともいえます。

意味は、「神様が居られます高天の原まで知れ渡り届くような立派な千木…云々」と言う意味になります。

「古事記」の国譲り神話では、大国主命が譲渡の条件として、「大空に千木を高々そびえさせた神殿をお作りいただけるなら…」とあります。

千木は本来、屋根の部材の破風板が伸びて突き抜けたものです。

現在は、建築上必要な部分ではありません。装飾の一部となっています。古代、建物で立派な千木を屋根につける事は、誰にでも出来る事ではありませんでした。宮殿等、一部に認められていた権威の象徴だったのです。神様の御神徳を表す為に、特に神社建築に残ったと考えられます。因みに、千木は内削ぎと外削ぎの二種類の形状があります。神様によって変わるとも言われていますが、理由はよく解っていません。

次は、棟木の横に載っている丸太です。これは「堅魚木」（かつおぎ）と言います。

摂社諏訪神社の千木と堅魚木

八、祭事について神職と準備について等、打ち合わせをする。
九、年二～三回、注連縄、紙垂を取り替える。
十、新しい部員に早く仕事の内容段取りを覚えてもらう。

管理部

管理部長　木本昭征（一班）

一、境内清掃
宮池、水口、排水溝の管理清掃定期的に行う。第二駐車場の清掃。境内、枯れ木、支障木の除去作業（一部外注あり）。草刈りの業務、境内、参道、御旅所、山宮（各所 年二～三回）。下之郷双葉会の清掃業務あり。境内建造物、屋根の落ち葉などの除去作業。
二、境内整備
宮池西側フェンス通りに牡丹、アジサイの補植をして環境を良くする。子安社周りに草花を移植し環境を良くする。生島公園の管理、榊、八重桜の木、垂れ柳、その他の手入れ。山宮、植林地の手入れ、須川、社有地の手入れ。宮池の水質浄化に伴う水利管理、地区水利委員会打合せ。
三、各部との連絡業務
祭典部　各祭事の準備・要請有り次第対応する。
広報部　各業務の準備・各イベント準備など。
四、年末年始の準備
薪作り　春に準備する。山宮、東山より調達する。お焚き上げ用は年末に東山より調達する。（軽トラ十～十五台）。
ストーブ、灯油の準備、照明設備、駐車場（一部外注）、各駐車場の白線引き、雪つき用具・本殿周りの参拝者の対応の準備など。道路標識の準備点検設置など。
五、資源物の管理
資源物管理は管理部で毎月第三金曜日に当番表により行う。
六、車両の管理
車検、点検（指定販売店）
タイヤ交換（夏、冬履き替え）
七、倉庫、西ハウスの管理
各道具、工具、御柱の道具、神輿、整備・点検　整理整頓、各種、燃料、点検

広報部

広報部長　高梨勝緒（十班）

一、神社境内における事業
季節ごとに神社大型看板を差し替える。（6月七五三・11月初詣・2月常設）
二、神社内での記録写真の撮影と編集整理
三、神社便りの発行
四、神社祭事・イベント時の許可書申請
五、福だるま頒布
六、カレンダー・ポスター作成
テーマを決めて写真データを蓄積し、カレンダーやポスターの作成
七、だるま会計決算
八、広報活動
・生島足島神社のホームページ（ＨＰ）が活用できる様に更改する
・広告代理店などに情報を提供し、知名度と参拝者集客向上に努める。
・広報誌等継続してデザインの改善を図る。

棟木の補強の為「葛」（カズラ）で締めた葛緒木が、語源といわれています。
また、魚のカツオが横たわっているように見えるのでその名称がついたとも言われています。皆さんは、丸々太った鰹がイメージ出来ますでしょうか。
堅魚木は、元々屋根を抑える「おもし」でした。縄文時代の竪穴式住居にも見受けられるそうで、大変古い建築様式です。古代建築は現代のように瓦などは載っていませんから強風に煽られたらひとたまりもありません。そこで、大きな丸太を載せて抑えとしていました。藁葺き屋根の抑えの意味があります。
数は、神社によって偶数奇数など違いがありますが、意味は良くわかっていません。

摂社諏訪神社の千木と堅魚木

「古事記」雄略天皇条には、「天皇の宮殿に似せて堅魚を上げた家がある云々・・・焼いてしまえ」と、あります。この事から、古来は皇居に限られていた様式とも考えられます
今回は、「千木」「堅魚木」の二点を取り上げました。ご理解頂けたら幸いです。神社は参拝後、建築や装飾等を鑑賞して、先人たちの崇敬の念や技術を肌で感じることが出来ます。また宮大工達の心意気や、建設当時の流行等も見て取れます。是非目線を上に向け神社の屋根に注目して頂けたらと思います。

御本社の千木と堅魚木

参考文献
『神道いろは』
神社本庁教学研究所 監修
二〇〇四年二月一日　神社新報社
『社寺建築を読み解く』
相原文哉 著 長野県神社庁 協力
二〇一二年六月一日　ほおずき書籍

神社年間行事予定

月次祭　つきなみさい
（毎月朔日　午前九時）一月は斎行しない

一月

歳旦祭　さいたんさい
（一月一日　午前九時）正月元旦
御門祭　みかどまつり
（一月八日　午前八時）
荒魂社例祭　あらみたましゃれいさい
（一月八日　午前九時）
御筒粥卜（占）神事　おつつがゆうらないしんじ
（一月十四日　夜　御籠祭後引き続き）
御筒粥卜（占）奉告祭及蟇目鳴弦並蛙狩神事　おつつがゆうらないほうこくさいおよびひきめめいげんならびにかわずがりしんじ
（一月十五日　午後一時）旧成人の日

二月

節分追儺祭　せつぶんついなさい
（二月三日　午後二時）
会員年度表彰
（引き続き）
鬼やらい豆撒き
（午後三時）
紀元（節）祭並神位祭
（せつ）さいならびにしんいさい
（二月十一日　午前十時）
祈年祭　きねんさい
（二月十七日　午前九時）
天長（節）祭　てんちょう（せつ）さい
（二月二十三日　午前十時）天皇誕生日

三月

神社総代就任奉告祭並委嘱書交付式
じんじゃそうだいしゅうにんほうこくさいならびにいしょくしょこうふしき
（午後二時）
秋葉社（講）例祭　あきばしゃ（こう）れいさい（三月二十六日　午後四時）

四月

御移神事（諏訪様還座祭）　おうつりしんじ（すわさまかんざさい）
（四月十八日　夕闇　午後五時）
摂社諏訪神社（下宮）例祭　せっしゃすわじんじゃ（しものみや）れいさい
（四月十九日　午前十時）
春季祭（御本社上宮）　しゅんきさい（ごほんしゃかみのみや）
（四月十九日　右例祭に引き続き）
昭和祭　しょうわさい
（四月二十九日　午前九時）昭和の日

五月

山宮社例祭　やまみやしゃれいさい
（五月十日　午前九時）

六月

御歳代田作り　みとしろたづくり
（六月二十五日　午後四時）
御歳代種蒔神事並祇園天王降祭
みとしろたねまきしんじならびにぎ

春から夏へ　これからの祭典

禰宜　池内宣裕

四月

冬から春の半年間（十一月～四月）、生島大神・足島大神に御奉仕された諏訪大神が御本社（上宮）から摂社（下宮）にお還りになられる御移（遷）りの神事が十八日夕刻執り行われます。翌十九日には摂社（下宮）の一年に一度の例祭が、続いて山桜咲く神島内御本社（上宮）の春季祭が斎行されます。

また本年同日、御皇室　皇嗣（秋篠宮）殿下が皇嗣になられたことを国の内外に広く示される「立皇嗣の礼」が皇居内宮殿に於いて国の儀式として挙行されます。つきましては、生島足島神社でも慶祝の当日祭が春季祭に引き続き斎行されます。

五月

新緑映える皐月、御柱が伐り出される東山にて山宮社の例祭が斎行されます。山宮社には御諏訪様御夫婦の神様が鎮座されていて、周囲には東信濃最大級の東山古墳群が点在、工科短大向かいの「いにしえの丘公園」にはこの地方で代表的、貴重な遺構とされる市指定史跡「他田塚古墳」があります。山宮様のお祭りの頃から、お山ではサツキをはじめとするツツジや様々な草木の花が咲き誇る本格的な里山の時期となります。お参りにぜひ足を運んでみられてはいかがでしょうか。

六月

二十五日、祭典部の総代さんにより神田の田作りが行われると五日後の三十日夕方、神田横の御仮殿に祇園の神々をお招きして種蒔きの神事が執り行われます。続いて午後六時頃、今年上半期の締めとして六月の大祓式（夏越の祓）が執り行われます。夏越の祓とは、誰しもが知らず知らずの内に心身に付いたであろう半年間の罪穢れ厄災を人形（ひとがた）に託して清め祓いの神事を行い、茅の輪をくぐり無病息災を祈る夏迎えの祭事です。

総代さん手作りの瑞々しく青々とした茅の輪をくぐることにより、活力を得て暑さ厳しい夏を乗り越えて欲しいと思います。神社では授与所にて事前に人形を用意してありますので、当日参列できない方も祓を行えます。多くの御参列をお待ちしております。

六月の大祓式

おんてんのうおろしのみまつり
（六月三十日　午後五時）
六月の大祓式（夏越の祓）ろくがつのおおはらえしき（なごしのはらえ）
（六月三十日　午後六時半）

七月

祇園祭　ぎおんさい（七月最終日曜日）
子供神輿・大人神輿・浦安の舞
下之郷三頭獅子舞奉納奉告祭しものごうみかしらししまいほうのうほうこくさい（七月最終日曜日午後二時）
獅子舞奉納
御歳代植苗祭（御田植神事）並祇園祭みとしろしょくびょうさい（おたうえしんじ）ならびにぎおんさい
（翌日午後五時）

八月

九月

田面神事　たのもしんじ
（九月一日　午後五時）
八幡社例祭　はちまんしゃれいさい
（九月十五日　午前十時）
例祭（秋季祭）（御本社上宮）れいさい（しゅうきさい）（ごほんしゃかみのみや）
（九月十九日　午前十時）
神賑祭（歌舞伎舞台）　しんしんさい
（午後一時半）

十月

御歳代稲刈り（抜穂）みとしろいねかり（ぬいぼ）
（十月中か十一月上旬　午後四時）

十一月

神（御）井神事　みいしんじ
（十一月一日　午後四時）
上神（御）井祭・下神（御）井祭
かみみいさい・しもみいさい
御移神事（諏訪様遷座祭）おうつりしんじ（すわさませんざさい）
（十一月三日　夕闇　午後五時）
御籠祭　おこもりさい
（十一月三日から四月まで　夕刻）
子安社例祭　こやすしゃれいさい
（十一月四日　午前九時）
新穀感謝祭（新嘗祭）しんこくかんしゃさい（にいなめさい）
（十一月二十三日　午前十時）勤労感謝の日

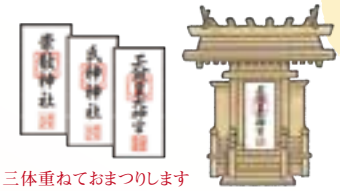
十二月

十三社例祭　じゅうさんしゃれいさい
（十二月二十五日　午前十時）
古神札（神符守札）**焼納式**　こしんさつ（しんぷしゅさつ）しょうのうしき　（十二月三十一日　午後三時）
十二月の大祓式（師走の祓）　じゅうにがつのおおはらえしき（しわすのはらえ）
（十二月三十一日　引き続き）
越年除夜祭　えつねんじょやさい
（十二月三十一日　引き続き）

神棚のお祭り

私たちにとって神棚は一番身近なお祭りの場と言えましょう。神棚には伊勢の神宮から戴いた「天照皇大神宮のお神札（神宮大麻）」、その次に氏神さまのお神札、その次に崇敬されている神社のお神札をおまつりしましょう。

三社造りの場合

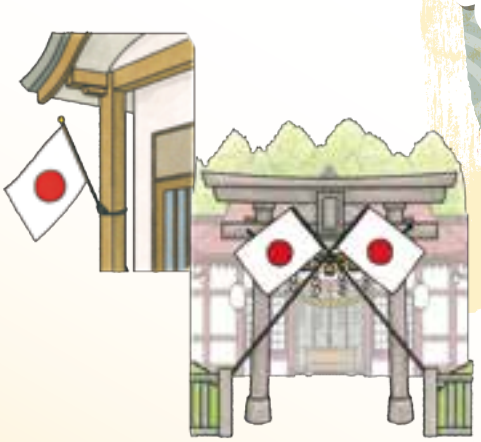


一社造りの場合

国旗について

祝日、神社のお祭りの日は、日本国民であること、氏子であることの自覚が促されるよい機会です。

玄関先や境内の掲揚塔、鳥居に旗竿を交差させるなどして国旗を掲げ、お祝いしましょう。

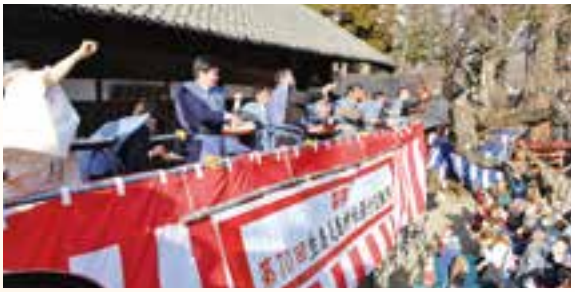


初詣・福だるま

平成から令和へ時代が引継がれ、令和初めての新年を昨年より約一万人増の初詣参拝者をお迎えしました。

節分

節分追儺祭神事、永年者表彰式典に続き、多数の方にお集まりいただき豆まきが行われました。



生島足島神社御筒粥卜事

早稲（わせ）	六分	馬鈴薯（ばれいしょ）	六分
中稲（なかて）	七分	果物（くだもの）	七分
晩稲（おくて）	八分	花卉（かき）	九分
夕顔（ゆうがお）	八分	蕎麦（そば）	八分
桑（くわ）	七分	大麦（おおむぎ）	六分
大豆（だいず）	七分	小麦（こむぎ）	八分
小豆（あずき）	六分	粟（あわ）	六分
春蚕（はるご）	五分	黍（きび）	五分
夏蚕（なつご）	五分	秋菜（あきな）	六分
秋蚕（あきご）	七分	大根（だいこん）	九分

写真室からのお知らせ

写真室では結婚式に必要なすべてを取り揃えております。お衣裳・美容着付け・撮影と神社内で全てが行えますので、とてもスムーズにご用意が出来ます。また、参列者の留袖・モーニングなどもございますので是非、ご利用くださいませ。

夢うさぎ 写真室
TEL〇一二〇ー八六二ー七五三

編集後記

暦の上で春本番！。三月末に降った雪も春の重い雪。冬の間眠っていた身体を動かす準備運動がここちよい。雪避け作業中、雪の下に咲いた福寿草を見つけ春を感じました。今年は暖冬でしたがいかがお過ごしでしょうか？

さて、当「神社便り」を益々充実した内容にと考えておりますが、年二回の発行ではタイムリーに情報提供が出来ないため、「生島足島神社ホームページ」並びに「まいぷれ」によるスマホ発信で情報が提供できるよう本年度改善する予定で検討しています。

また、昨年の本誌記事で紹介しました「生島むすび」は、本年も六月三十日午後六時半より開始される「夏越の祓（六月の大祓式）」終了後にお頒ちしますのでご家族皆さんでお祓いにお越しください。（昨年は二百五十名）

最後になりましたが、総代任期満了で退任されました滝沢善明さん大変ご苦労様でした。

氏子崇敬者の皆さんには昼と夜の温度差が激しい季節です。体調を崩さぬよう元気でお過ごしください。

〈広報部〉